



その先の、道へ。北海道
Hokkaido, Expanding Horizons.

平成30年度

「少年の主張」全道大会

作品集



公益財団法人北海道青少年育成協会
北 海 道
独立行政法人国立青少年教育振興機構

目次

はじめに

公益財団法人北海道青少年育成協会会長 竹谷 千里	1
--------------------------	---

平成30年度「少年の主張」総合振興局・振興局地区大会

2

作品集

【最優秀賞】

命の給食	毛利 郁也 (洞爺湖町立洞爺中学校3年)	4
------	----------------------	---

【優秀賞】

私達の力で	車塚花瑠香 (厚岸町立真龍中学校2年)	5
どんな人でも	楓川 奈央 (中標津町立広陵中学校2年)	6
伝えるために生きていく	藤塚 麗瑠 (岩見沢市立東光中学校3年)	7

【北海道150年記念特別賞】

あたりまえという名の奇跡	田元 克 (美幌町立北中学校3年)	8
--------------	-------------------	---

【奨励賞】 (発表順)

「発達障害と向き合おう。」	松村 未来 (札幌市立東白石中学校3年)	9
「なぜ同じではないのか」	下橋 茉衣 (札幌市立北野中学校3年)	10
感情と行動	松原 慧稀 (江別市立中央中学校3年)	11
言葉の持つ力	藤井 響 (留寿都村立留寿都中学校2年)	12
伝えたい言葉	神谷 美希 (日高町立門別中学校2年)	13
愛されている幸せ	黒谷 心優 (長万部町立長万部中学校3年)	14
絶対は絶対はない	板谷 和奏 (乙部町立乙部中学校2年)	15
今、私達にできること	斉藤 愛唯 (旭川市立神居東中学校3年)	16
私を支えるもの	川口 優夏 (羽幌町立天売中学校3年)	17
出会いと別れがつくり出すもの	鈴木 愛奈 (浜頓別町立浜頓別中学校3年)	18
伝える	藤井 一葉 (帯広市立帯広第四中学校3年)	19

講評

審査員長 大村 浩喜 (北海道中学校長会幹事／苫小牧市立光洋中学校長)	20
-------------------------------------	----

参考

平成30年度「第40回少年の主張全国大会」～わたしの主張2018～内閣総理大臣賞受賞作品	21
--	----

資料

大会のねらい／大会のあらまし／審査員	22
平成30年度「少年の主張」総合振興局・振興局地区大会開催状況	23
平成30年度少年の主張実施要領	24

「少年の主張」全道大会 歴代最優秀賞並びに優秀賞受賞者名簿

26

はじめに

はじめに、「平成30年北海道胆振東部地震」により、お亡くなりになられた方々、ご遺族の方々に心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

この地震の発生に伴い、9月7日に開催を予定しておりました「北海道150年記念 北海道青少年育成大会（「少年の主張」全道大会）」を中止し、開催にあたりご協力を頂いた関係の皆様にはご迷惑をおかけし、とりわけ、「少年の主張」全道大会に向け、日々練習に励み、準備をされていた地区代表者の皆さんには、楽しみにしていた発表の機会を損なうこととなり大変残念であり、深くお詫び申し上げます。

「少年の主張」全道大会は、昭和54年の国際児童年を記念して始められ、今回で、40回目を迎えました。

この大会は、人格を形成する上で重要な時期にあたる中学生が、日常生活を送る中で感じ、考えていることや未来への夢、希望などを中学生自身の言葉でまとめ、それを広く発表する機会を提供することにより、同世代の中学生に周囲の人々や社会との関わりについて、より深く考えていただき、社会の一員として自覚していただく契機とすること、また、道民の皆様が中学生の考え方、感じ方、意見等に直接触れることにより、青少年健全育成に対する理解と関心を深めていただくことを目的として開催しています。

今、少子高齢化、国際化、情報化等が急速に進展する中、青少年を取り巻く環境も大きく変化しています。そのような中で、彼らの主張に真摯に耳を傾けることは、私たち大人の責任でもあると考えています。

これからの北海道を担う、希望に満ちあふれた輝かしい存在である青少年の皆さんには、自分たちの意見を発表することを通じて、広い視野と柔軟な発想を育むこと、論理的に物事を考えること、自分の主張を他の人に正しく伝える力などを身につけて欲しいと願っています。

今年は、道内325校から36,420名の方が応募され、地区大会を経て、16名の方が全道大会に進まれました。この作品集は、その16名の皆さんの生き生きとした主張を掲載したものです。

この作品集を一人でも多くの方に読んでいただくことを願いつつ、本大会を中止することとなりましたが、ご準備・ご協力いただいた関係の皆様には心からお礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

平成30年12月

公益財団法人北海道青少年育成協会
会長 竹谷 千里

平成30年度「少年の主張」総合振興局



空知地区大会



石狩地区大会



後志地区大会



胆振地区大会



日高地区大会



渡島地区大会



檜山地区大会

・ 振興局地区大会（道内14会場開催）



上川地区大会



留萌地区大会



宗谷地区大会



オホーツク地区大会



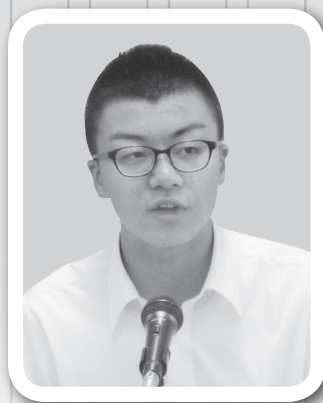
十勝地区大会



釧路地区大会



根室地区大会



命の給食

とうやこ とうや
洞爺湖町立洞爺中学校3年
もうり ゆうや
毛利 郁也

「浩生の家トマト美味しい！」

「郁也の家のブロッコリーも美味しいよ！」

僕の学校の給食では、地元で採れた、野菜が使われる。僕の家も農家なので、自分の家で採れた野菜が給食で出される。それを学校のみんなが「美味しい」と言って食べてくれる。とても誇らしい気持ちになる。

僕の学校は食に対する意識が高い。ただ、栄養やバランスを考えているだけではない。食事のときのマナー、コミュニケーション、季節の行事、様々な「食に関する知識」を学ぶことができるのだ。

まず、給食は、先生方も生徒もみんな食堂に集まって食べる。学校にいる全員が集まる食堂、会話をしながら食べるので、より美味しく楽しく食べることができる。

また、年に二回、「花見弁当」と「もみじ弁当」と言って、重箱になったお弁当が全員に配られ、外で桜や紅葉を見ながら食べる行事がある。

自分にあった分量を選ぶカフェテリア給食、自分で栄養バランスを考えて食材を選ぶバイキング給食もある。

また、月に数回、栄養教諭の方が来て、栄養や季節の野菜、マナーなど、食の大切さについて話をしてくれる。このようなことは、どこの学校を回ってもなかなかないだろう。

栄養教諭の方が話してくださった中で、特に印象に残っている言葉がある。

「私が最終的に伝えたいのは、給食からみなさんの家庭のご飯に良い影響を与えることです。地元で採れた新鮮で美味しい野菜を食べ、自分で食材を選んだり栄養やマナーについて学んだことが、大きくなって自分で作るようになったときに、活かされてくる。今の栄養バランスや健康も大切だけれど、自分でそれができるようになることが伝えられたら良いなと思っています。そして、その時にこの洞爺の給食を思い出して作ってくれた

ら嬉しいです。」

僕自身、洞爺の給食を食べるようになって変わった。自分や友達の家で作っている作物が給食で使われているのを見ると給食を残さず全部食べるようになった。

僕も、土日や夏休みは、朝早くから夜遅くまで畑の手伝いをする。真夏に、一つ一つブロッコリーの苗を植えていくのは、大変な作業だ。キツイし嫌だとも思うこともあるけれど、一つの作物を自分の手で育てた喜びはとても大きなものだ。そして、自分が農業に貢献していることが何よりうれしいのだ。父や母がまるで人を育てるかのように愛情をこめて大切に命を育てているのも見てきた。このように生産者の気持ちがわかるにつれて嫌いなものでも食べられるようになっていった。

今、日本でも「食品廃棄」が大きな問題となっている。年間千九百万トンもの食料が廃棄されている現状がある。こんなに愛情をこめて生産者が作ったものが捨てられているかと思うと、いたたまれない気持ちになる。

また、産業廃棄だけではなく、食に関する「生活習慣病」「孤食」なども問題になっている。それは、僕たちの体の問題だけにとどまらず、精神にも影響を与えているという見方もある。その背景に、「食」に対する文化や知識が不足していることが考えられるのではないだろうか。

食事は、ただ食べるためのものではない。食事は命を学ぶことだと僕は思う。食事そのものが、動物や植物の命をいただくことにより成立している。そして、そこには、命を育む人たちの愛情や、食を作る人たちの使命がある。季節があり、文化を味わうことができる。そして、食べることは、食べる側の知識と感謝の気持ちがあって初めて成り立つものということを忘れてはいけない。

洞爺の命の給食、その素晴らしさや知識を受け継ぎ、多くの人たちに、地域を超え、世代を超えて、伝えていくことが僕たちの使命だと僕は思う。

優秀賞

北海道教育委員会教育長賞



私達の力で

あつけし しんりゅう
厚岸町立真龍中学校2年
くるまづか はるか
車塚 花瑠香

「はるか、よく障害者と仲良くできるね。好かれてうれしいの？」

これは、私が小学生の頃に何度もかけられた言葉です。私には発達障害を持つ、A君という友人がいます。小学校の六年間、クラスが一緒でとても仲良くしていました。低学年の頃はこんな言葉をかけられたことはありませんでした。

しかし、学年が上がるにつれ、A君に対する酷い言葉が毎日耳に入ってくるようになりました。

「お前、Aと付き合えよ。」

「やだー。障害者と付き合うなんて、マジで無理。」

「障害者って恋をするの？」

こんな心無い言葉を聞く度その場から逃げ出したい気持ちになりました。

そんな中、理由もなくA君を蹴り、笑っている人達がありました。「なぜ、こんな酷いことをするんだ！こんなおかしい！」私は心の中で叫びました。しかし、どんな人よりも私が最低でした。なぜなら、私はA君への差別を目の当たりにしているのに、何も注意できず、見て見ぬ振りをしたからです。何度も私にかけられた言葉に対しても、ただ作り笑いをして流してきました。それを注意したら、笑われたり、怒られるからです。そして、今とても後悔しています。「なぜ、周りを恐れて、正しい行動ができなかったのだろう」と。私はこの経験を通して、差別に対して正しい行動とは何かを深く考えるようになりました。

差別はなぜ起こるのでしょうか。それは、自分と違う境遇の人とは分かり合えないと最初から決めつけているからではないのでしょうか。誰にだって、努力しても変えられないコンプレックスはあります。もし、あなたがそれを人から馬鹿にされたり、冷たい目で見られたり、酷い言葉をかけられたりしたら、どんな気持ちです

か。

差別は自分に関係の無いことでしょうか。どうでも良いことでしょうか。目をそらさないで下さい。あなたの周りにも差別を受け、悲しみ苦しんでいる人がいるはずです。心の底から「そんな人達を救いたい」と思い、行動で示せば差別は必ず無くなります。

私は、A君への差別を無くすための第一歩として、クラスの前でこの主張をしました。「みんなに嫌われるんじゃないか」と思い、本当に怖くて、手足が震えました。でも、誰も怒らないで私の主張を聞いてくれました。その後、クラスの中ではA君に対する差別は聞こえなくなりました。私は正しい行動をすれば、差別は本当に無くなるものだと思いました。だからこそ、今の社会にある差別は無くならないだなんてあきらめてほしくない。今日も社会は差別で溢れています。LGBTの人達に対して、差別や偏見をむき出しにして語る議員がいたり、重度の知的障害を持つ人のことを「心を失った人」と決めつけて、たくさんの尊い命を奪ったり…。互いを認め合う心があれば絶対にこんなことは起きません。

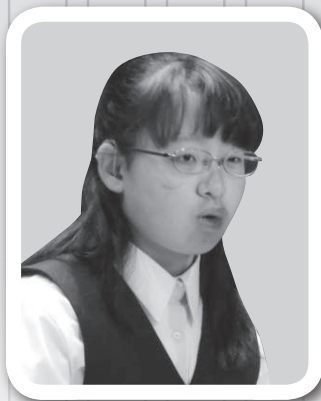
様々な趣味、性格、障害、肌の色、性別…。人は皆違うところがあるのです。違うからこそ面白い。全ての人に素晴らしいところがあるのです。そこを認め合うことが差別を無くするための鍵なのです。

あの時かけられた言葉に、私はこう答えたかった。「A君の障害の部分だけでなく、素晴らしいところに目を向けてほしい！」と。このことをこれからも伝え続けたい。

些細なことで構わない。こんな私だってできたのです。たくさんの方が意識し、行動すれば大きな力になります。私達はそんな力を持っています。障害に対する差別だけでなく、全ての差別を無くしましょう。私達の力で。必ず！

優秀賞

北海道PTA連合会会長賞



どんな人でも

なかしべつ ころりょう
中標津町立広陵中学校2年
もみじがわ なお
楓川 奈央

二〇一六年七月二十六日、何があったか覚えて
いますか？この日は、神奈川県相模原市津久井や
まゆり園で殺傷事件があった日です。この事件で
亡くなった人は十九名、ケガをした人は四十名以
上もあり、「戦後最大の事件」と言われています。
この事件を知ったとき、私は犯人に対し大きな怒
りを覚え、被害者のことを思うと、とても悲しく
なりました。

しかし、犯人のある言葉で、全てがショックに
変わりました。その言葉とは、犯人の動機でした。

「障害者なんて、いなくなればいいと思った。」

みなさんはこの言葉、どう思いますか？障害者
を雇う会社も増えている今、このような言葉を発
する人がいるとは、私は夢にも思いませんでした。
それと同時に「私の耳は、どう思われているのか」
と思いました。

私は難聴です。去年の十二月、手術により左耳
はほぼ平常まで回復しましたが、今でもテレビを
見る時は両耳にこの補聴器をつけないと、聴こえ
ません。

去年、中学校へあがる時、

「先生の声は聞こえるか」

「耳のことで何か悪口を言われたいか」

と心配でした。ですが、先生の声はよく聞こえ、
耳について悪口を言われたことは、一度もありま
せん。本当に良かったと思っています。

私は、社会で働く難聴者、ろうあ者はどのよう
な悩みを持っているのか疑問を持ち、「NHKハ
ートネット」の書き込み板を見ました。すると、そ
こには多くの意見や悩みが書かれていました。そ
の中で私が特に共感した悩みが二つあります。

一つ目は、「聞き返すことに躊躇し、よく分か
らずに返事をしてしまう」ことについてです。これ
は私も何度も経験があります。そこで私は友達
の問いが聞き取れなかったら、今までの会話や、
やっていたことから推測して答えたりしていま
す。これは、もし聞き返したら「聞いていない」

と思われたり、「いやな顔をされたりするかもしれ
ない」という思いがあるからです。

二つ目は、「すれ違う人と挨拶をしたら、自分
の声が向こうに聞こえず無視したと思われた」と
いう悩みでした。今は自分の声がどこまで届くか
わかっているのでこのようなことはありません。
でも、手術する前は私も誰かと挨拶するだけでド
キドキして、「声、聞こえたかな」と心配でした。

世の中では、相模原の事件の犯人に共感した、
という人もいるそうです。たしかに、高齢化が進
んでいる今、介護の手も足りなくなっています。
だからと言って、自分で意思表示ができないから
…一人で生きていくことができないから…そんな
理由で、突きはなしてもいいことなのでしょう
か？

私は違うと思います。

「齢」、つまり「齢を重ねる」とは「弱いを重ね
る」こと。これは、社会学者である上野千鶴子さ
んの言葉です。その意味は年をとれば誰でも働け
なくなり、生活をするには他人の手が必要となる、
ということです。だからこそ、いつかは弱者にな
る私たちも、安心して生きていける、社会をつく
ることが必要なのです。この上野さんの言葉に私
は共感しました。

先ほど紹介した書き込み板では、「もっと難聴
について知ってほしい」という意見が多かったで
す。彼らは、優しくされることや手助けされるこ
とだけを、望んでいるわけではありません。この
障害をもって、何が大変で何ができないのか、正
しい理解を求めているのです。

みなさんも、いつか大人になったら障害を持つ
人と働くかもしれません。でも、どんな時でも忘
れないで下さい。大人も、子供も、しゃべること
のできない人も、歩けない老人も、どんな人でも、
「みんなが同じ重さの命を持っている」というこ
とを。



伝えるために生きていく

いわみざわ とうこう
岩見沢市立東光中学校3年

ふじつか りる
藤塚 麗瑠

「ねえ、人権って何？」
テレビを見ていて、偶然耳にした「人権」という言葉は、小学四年生の弟には難しい。

実際私も、十分な説明をしてあげる事が出来なかった。ネットで調べた簡単な一文がある。

「人間が人として本来持っている権利」

私の小学校入学を半年先に控えたある日、学校関係者からこう言われた。

「本気でお子さんを入学させるつもりですか」

六歳の私と両親を目の前にして、その人は言った。普通の小学校への入学は、両親にとってとても勇気のいる決断だった。沢山の人のアドバイスや励ましのもと、やっとの想いで決心した両親。帰りの車で泣いていた母の姿は、今も脳裏に焼き付いている。

ある福祉従事者からは、

「国が何でもしてくれるなんて思わないで下さい」と言われた。利用したい福祉制度について、尋ねた時の返答がそれだ。

この人達の中に、私達「障がい者」とその家族の人権に対する意識は存在していたのだろうか。

でも、この世界はそんな人達だけではない。

近所の本屋の店員さんは、手を上に上げる力があまり無い私に対して、お金を取りに来てくれたり、お釣りをくれたりと、レジから私の所まで何往復もしてくれる。しかも、終始笑顔だ。

家族で札幌雪まつりへ行った時の事。雪で車いすが立ち往生。両親二人の力だけではどうにも出来なかった。

「大丈夫ですか」

一組の年配の夫婦が、私達を助けてくれた。そして、両親にとっても温かい言葉を残してくれた。

「せっかくなので、楽しませてあげて下さいね」

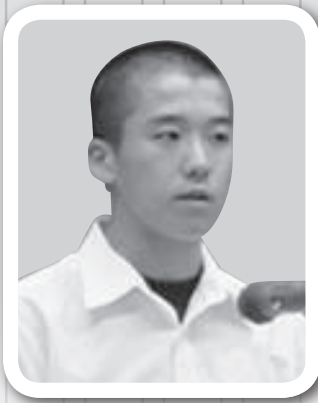
私にも、私にだからこそ感じられる、温かいエピソードも沢山ある。けれど、綺麗事だけで

は人々は聴く耳をあまり持たない。だから私は、あえて辛い現実も挙げた。一人でも、多くの人に足をとめてもらえる様に。一人でも、多くの人の心に「何か」を届けられる様に。

私には夢がある。自分の希望する高校へ進学し、将来は検事になる事だ。その過程では、これまで以上に厳しい現実と向き合う事になるだろう。それでも私は、自分と同じ様な立場の人達の突破口となり、いつか夢を叶えたい。

あなたは、考えた事があるだろうか。「差別」の対象になる人達の苦悩の日々を。聴こうと思った事はあるだろうか。「障がい者の家族」の闘いの日々を。知ろうとしたことがあるだろうか。「関わる人」の、配慮の大きさ、有難みを。そして、無いとは思っていないだろうか。「障がい者」の、幸せな人生を。

昨年十二月、内閣府が「人権擁護に関する世論調査」を公表した。障がい者の人権問題についての最多の回答は「就職や職場での不利な扱い」次いで「差別的な言動をされること」だった。これも現実だ。けれど、この解答をした人達にも私と同じ様に、手を差し伸べてくれる人がきっと沢山いるはずだ。私はその全てを、あなたに知ってもらいたい。だから私はこれからも、伝え続けていく。そして私はこれから先も、人として障がい者として、誇りをもって生きていく。



あたりまえという名の奇跡

びほろ ^{きた} 美幌町立北中学校3年

たもと ^{かつみ} 田元 克

「ただいま」「おかえり」「今日はどうだった？」家に帰れば、家族と交わせる何気ない会話。みなさんは、こんなにも平和な毎日を、「あたりまえ」だと思っていないだろうか。

人は、「こうしたい」「ああしたい」と理想を求め、その理想が叶わなかった時には、「もう嫌だ」「死にたい」などという言葉簡単に発してしまう。

「ちょっと言ってみただけ」「本心じゃないし」と思う人もいるだろう。けれど生きてくても生きられない人が、この世界には何万人といる。そして、その人を必死に支えている人たちもいるのだ。

確かに生きることが苦痛だと思う時は、生きていけば幾度となくある。でも、自分以外の人たちに思いを馳せる時、生きることと必死に向き合っている人、「死にたい」という言葉を聞いた人たちの思いを考えた時に、そのような言葉が本当に言えるのだろうか。

二〇一七年六月二十二日、歌舞伎俳優、市川海老蔵さんの妻で、フリーアナウンサーの小林麻央さんが亡くなった。彼女は「力強く人生を歩んだ女性でありたいから、子どもたちにとって強い母でありたいから、病気の陰に隠れている自分とお別れしよう」という思いから、進行性の乳がんであることを告白し、どんなにつらくても、日々様子をブログに綴った。強い思いで始めたブログを一日も絶やさず、懸命に上げ続けた。そこには、「あたりまえではなく、生きている一日一日を大切にしよう」という彼女の思いがあったのだと思う。

僕の母も、つい数か月前まで入院生活を送っていた。昨年四月、突然体調が悪くなり入院することになった。それから、僕の「あたりまえ」は一変した。

普段、帰れば聞こえてくるはずの「おかえり」が聞こえなくなった。お腹が空いたら、「今日

のご飯、何？」、学校で何か嫌なことがあったら、「今日学校でさ…」などと相談できた「あたりまえ」が消えた。

かけがえのない人が、突然、自分の日常からいなくなる、それだけで、僕の日常は、非日常へと変わったのだ。

それから母が入院していた一年間、僕はずっと「日常とは何か」「あたりまえとは何か」ということを考えていた。

たぶん、「あたりまえ」とは、本来の姿ではないのだ。そしてそれは、小さな小さな奇跡の組み合わせでできているものなのだ、と実感した。

「あたりまえ」の対極にある言葉は、「ありがとう」だと聞いた事がある。

あなたのあたりまえの毎日も、何かが一つでも欠けた瞬間、それは「あたりまえ」ではなくなる。人は、あり得ないことが起こった時だけが「奇跡」だと思ってしまうが、それは違う。いつも私たちのそばで、今この瞬間も起こっているのだ。奇跡だからこそ、「有り難い」のであり、「ありがとう」という思いが沸き起こるのだと思う。

僕は、この主張を聞いてくださった方々に、毎日ではなくても、何かの折にふと、あたりまえの日常があることに「感謝」をし、「ありがとう」の思いを感じるきっかけになってもらえればと思う。

「あたりまえ」という奇跡と、感謝の思い、「ありがとう」を、感じながら、僕は一日、一瞬をしっかりと生きていきたい。

奨励賞



「発達障害と向き合おう。」

さっぼろ ひがししろいし
札幌市立東白石中学校3年
まつむら みらい
松村 未来

「今日も期限におくれたの？何度も確認したよね？」「ねえいくら急いでいても、ぶつかったら謝りなよ！」「まったく、もっと周り見て！」このように言われたり、思われている人、あなたの周りにいませんか？そのような人の中には、自閉症やADHDなどいわゆる「発達障がい」の人がいます。見た目ではわからない場合もありますが、日本では十五人に一人もがこの障がいをもっていると言われていています。という事はあなたの近くにもいるという事です。ではそのようなかたの特徴的な所を挙げていくので、みなさんはこんな人いたかと周りの人の顔を思いうかべながら聞いてください。まず、人がたくさんいて騒がしい所では話を理解しづらい。人に自分の思いを伝えるなどのコミュニケーションが苦手で集団行動においつけない。想定外の事が起こると、感情のコントロールができなくなる。ささいな事でパニックやヒステリーを起こしてしまう。このような行動により、本人は全く悪気なく行動しているつもりでも人からは「わがまますぎる。」「親のしつけが悪い。」と言われてしまう。さて誰かの顔が思いうかびましたか？では、あなたはその人の事をどう思っているのでしょうか。正直、「とても素敵な人だ。」と即答できる人は少ないでしょう。しかしそれは、その人の事をよく理解していないからかもしれません。実は、私も以前はそうでした。頼み事を忘れられたりすぐに泣いたり直接何かされた訳でもないのに見ていて心がもやっとする時がありました。しかし私には考えを変えるきっかけがあったのです。それは発達障がいをもつ一人の女性の存在です。今は社会に出て働いている彼女を私は幼い頃から知っています。彼女が学生の頃、みんなにおいつけず、いつも人を待たせてしまい、クラスの子に「いつまでかかるんだよ。」と急かされ、責められ、先生にまで「あなたのような人がいるせいで全く話が進

まないのよ。」と言われ、いわゆるいじめを受けたそうです。困った時に誰も助けてくれないなんて悲しすぎますよね？しかし彼女はその時代をふり返りこう言ったのです。「そういう思い出があるから、仕事が辛くてもあの時に比べれば！と頑張れる。今はその時代に感謝してる。」この言葉を聞いて彼女の心の強さに驚いたのと共に、どうして彼女のような人が辛い思いをしなくてはならなかったのか、もっと早く理解されていれば傷付けずに済んだかもしれないと思いました。そして気付いたのです。軽蔑されるべきなのは障がいをもつ人やその家族なんかじゃなく、それをばかにしたりさげすんだりする方なのだ。そこで私は勇気を出して特別支援学級に通う同学年の女の子に「一緒に帰ろう。」声をかけてみました。学校では関わる機会があまりない今、しっかりと会話をしたのは久しぶりでしたが、最近どう？と他愛もない話をし心がなごみました。会話をする事で、障がいという言葉にかくされてしまったその人の個性や優しさを身をもって感じる事ができました。

今日覚えて帰っていただきたいのは、自閉症、アスペルガー症候群、LDそんな発達障害の種類や名前ではなく、障がいといっても害を与えてくる存在ではないという事、そして障がいをもつ人と関わる事は決して恥ずかしい事ではないという事です。親のプライドで特別支援学級に入れられない人、毎日両親が自分の事でどなり合うのを静かに聞く人など、必要な支援を受けられず毎日が辛い人がたくさんいます。だから困っている人を見たら「手伝いましょうか？」と優しく声をかけてください。いつかじゃなく今、今日の帰りからです。あなた一人の優しさが障がいをもつ人やその家族の心を明るく温かくできるのです。どんな人も自分に自信や誇りをもって暮らせる社会を一人一人の力でつくってゆきましょう。

奨励賞



「なぜ同じではないのか」

さっぽろ きたの
札幌市立北野中学校3年
しもはし まい
下橋 茉衣

私が中学校に入学して、しばらくたったある日、私は友人からこんな話を聞きました。内容は校則の髪型についての話です。友人の話によると、お団子しばりや髪の毛が肩についてもさらなくても良いという公立の中学校があるとのことでした。私はその話を聞いて「なぜ同じ札幌の公立の中学校なのに、同じ校則じゃないのか」と、疑問と不満を持ちました。

そこで、私は北海道の公立中学校の髪型についての校則を統一するべきだと思います。

私の学校の生徒手帳に記載されている髪型という項目には「流行を追わず、清潔で中学生らしい髪型を心がける。」と書かれています。では、清潔な中学生らしい髪型とは何かと問われれば、考え方は人それぞれだと思うのです。特にその考え方は中学生視点と大人視点で大きく変わると私は思いました。大人と中学生のそれぞれの理想は、まったく異なるものと言っても過言ではないと思うからです。

私は他の中学校の生徒手帳の髪型の項目についてどのような書かれ方をしているのか知りません。しかし、確かにわかることはこの小さな項目一つを自由性を高める方向で統一する事で、生徒同士で新しい一面や個性を発見することができ、中学生たちの不満や不平等意識もかなり大きく変わる可能性も秘めているということです。

ここで一つ、普段の学校生活での髪型についての例を挙げます。私は体育の時にお団子しばりをした方が運動はしやすいと思っています。それは髪の毛をただしばっているだけだと揺れるときに気になるし、周りに髪の毛がぶつかることがあるからです。逆に普通にしばっていた方がいいと言う人もいるでしょう。それならば、お団子しばりも一本しばりもどちらも良いことにすればいいのではないかと私は思いました。実際に私の友人にも、「髪の毛をただしばって

いるだけだと気になるからお団子しばりで運動がしたい」と言っている人がいます。

体育時以外でも様々な場面でこのようなことは数多くあります。その様々な場面での事柄をTPOに応じて変化させる能力を養うという点において効果的であるのではないのでしょうか。

髪型は大切な個性です。同じ制服を着て集団意識を高めつつ、小さな髪型の変化で個性を伸ばして自由性を少しずつ広げていくことも重要な学習の一環であると思います。

髪の毛の脱色、染色、パーマまで認めてほしいというわけではありません。私もやり過ぎた髪型は良くないと思います。ただ、「他の中学校では良いのに」と不満に思う中学生は私の他にもたくさんいると思います。ですからあくまで基本の考え方を尊重しつつ、他の小さな事については生徒がそれぞれ自主性を持って決めていくのも良いのではないかと私は思います。

また、私は初めに「北海道の公立中学校」と言いました。それは私の家族から札幌市付近より、地方の方が校則は厳しかったという話を聞いていたからです。「札幌だけ変わればいいか」という自己中心的な考え方だけでは変えられるものも私は絶対に変えられないと思います。

これらのことは髪型だけに限らず、他の様々な事柄にも言えることです。細かなルールは基本のルールを考慮しつつ、自分たちでほどよい中学生らしさを考えるというのは、社会に出たときに役立つ必要な力をつけられる面白い取り組みになるのではないかと私は思いました。

奨励賞

感情と行動



えべつ ちゅうおう
江別市立中央中学校3年
まつばら さとぎ
松原 慧稀

「喜怒哀楽」という言葉がある。喜び、怒り、哀しみ、楽しみ。人間の様々な感情を意味している。

感情があるということは素晴らしいことだが、時には人を傷つけてしまう。あなたには、そんな経験はないだろうか。

これは、昨年七月のことだ。祖父が入院するのに伴って、祖母が僕の家に泊まりに来た。僕の祖母は認知症なのだ。

夕食は僕と祖母で食べる事が多く、その日も二人で食べていたら、

「慧稀君は今、何年生なの。」

突然、祖母が聞いてきた。

「中学二年です。」

僕はそう答えた。しかし、数分もしないうちに、
「慧稀君って、今何年生なの。」

また聞いてきた。「さっき言っただろ。」と心の中で叫びながら、

「中学二年です。」

と答えた。そんな日が何日も続いた。僕の心はいら立ちでいっぱい、今にも割れそうな風船みたいだった。

そんなある日、テレビを見ていたら、

「家まで、バスとかでどうやって帰るの。」

と祖母が聞いてきた。

「おじいちゃんは入院してるから、今日はここに泊まるんですよ。」

と答えた。しかし祖母は、「電気をつけっぱなしだ。」「鍵をかけていない。」などを理由に「帰る。」と言ってきた。何回も説得しているうちに、パンパンにふくらんだ心の風船がついに割れてしまった。

「今日はここに泊まるんだって。電気も消しているし、鍵もかかっているから大丈夫なんだって。」

と強く言ってしまった。それでも祖母は、「帰る。」と言うので、僕はもう諦めて、

「あとでお母さんに聞いたら。」

と言って、再びテレビを見始めた。さっきはあんなにおもしろかったテレビが、今はちっともおもしろくなかった。

数十分後、母の仕事が終わり、祖母が母にさっきと同じ質問をした。母は怒ることなく、祖母に説明をした。同じ事を何度聞かれても冷静でいる母の様子を見て、僕は、胸の奥がモヤモヤする感覚に襲われた。そして、「なぜあんなに強く言ってしまったんだろう。」と後悔した。

相手に悪気がないことはわかっていたのに、「怒り」という感情に任せて行動してしまったせいで、相手を傷つけてしまった。今回の事以外にも、感情に任せて行動して、相手を傷つけてしまったことがある。しかし、だからと言って、感情を無にするのは違う。感情があることは素晴らしいことだからだ。ただ、相手を傷つけてしまう感情は抑えるべきだ。では、どうしたら良いのだろうか。今回、祖母への対応が、母と僕で違ったのは、母が祖母の「立場」や「状況」を思いやって接していたからだと思う。だから、相手のことを考えて接すれば感情をコントロールでき、相手を傷つけずに済むはずだ。相手を思いやるこの気持ちこそが「優しさ」なのだと、今回のことで気づかされた。これからは自分の心の中を優しさでいっぱいにしていきたい。

「喜怒哀楽」。これは、人間にとってかかせない、そして人間らしさを象徴する大切なものだと思う。

これからは、「喜怒哀楽」を豊かに表現しつつ、相手の「立場」や「状況」を考えていきたい。

僕の心の風船。これからもふくらみ続けていくだろう。怒りなどではなく優しさで。

奨励賞

言葉の持つ力



るすつ るすつ
留寿都村立留寿都中学校2年

ふじい ひびき
藤井 響

僕はコミュニケーションをとる事が大好きです。そして、得意です。それには、僕の生活環境が大きく関わっています。

僕は、父の仕事の関係で三度の転校を経験しました。行った先々でたくさんの人と出会い、生活してきました。転校を繰り返して思ったことがあります。それは、その学校によって、そこにいる人々の習慣、価値観に違いがあるということです。特に、流行りや、コミュニケーションのとり方が違うと感じました。前の学校では当たり前だった友達とのやりとりが、次の学校では受け入れられない。また、今まで知らなかったことが、その地域では当たり前。しかし、このような違いによって、周りを観察し、理解しようとし、失敗を繰り返しながら僕のコミュニケーション力は培われてきたのだと思います。

現在は「メール」やSNSという便利で手軽なコミュニケーションの手段があります。しかし、僕は使ったことがありません。相手の顔が見えないこの手段は、言葉のニュアンスや間、感情がわかりづらくとても不安です。相手の顔を見て、表情や動きを使って直接会話をした方がよりスムーズにコミュニケーションを楽しめるのではないかと考えます。

また僕は、海外の人達とのコミュニケーションにも、強い関心があります。僕は、十才のときにオーストラリアにホームステイをしました。当時は、英語を上手く話すことができませんでした。しかし、単語をつなげたりジェスチャーをしたりすることで、なんとか相手に気持ちを伝えることができました。「言葉」が不十分な状況で相手に伝える難しさを強く感じ、もどかしく、悔しい思いをしました。僕は、このホームステイをきっかけに、英語をもっと学びたい、触れたいと思い、次の目標にむけてより深く、英語を学んできました。

そして、今年の春休みにアメリカでホームス

テイをしました。初めは緊張しましたが、自分でも驚くほど会話がスムーズになっていました。また、伝わらないときは、言葉の言い回しを変えるなどの工夫をしてコミュニケーションをとりました。以前のときと違い、本格的な会話ができるようになり、言葉がいかに大切かを実感しました。

最近、高精度な翻訳機があることによって「英語を話す必要はない」という人もいます。しかし、それは違うと思います。アメリカで一緒だった子の中には、翻訳機を持参してくる子もいました。しかし、ホストマザーは目を見て話す僕に沢山話しかけてくれました。機械が作った無感情な言葉よりも自分の考えた感情がこもった言葉の方が、たとえ間違っているものでも嬉しいものなんだと分かりました。

今僕は、海外で働くことに興味を持っています。日本語も英語もあやつり、世界中の人とつながりたいと思っています。これからさらに、英語を学び、よりスムーズにコミュニケーションをとりたいです。

「言葉」それは、人と人をつなぐ、最も大切なツールです。まだ中学生の僕は、親、先生、友達に支えられながら生活しています。だからこそ、周りの人とコミュニケーションをとることは、生きる上で欠くことができないものなのです。言葉の持つ力を見つめ直し通じ合えたときの喜びや、失敗を繰り返しながら成長していきたいです。

奨励賞

伝えたい言葉



ひだか もんべつ
日高町立門別中学校2年
かみや みき
神谷 美希

(おばあちゃんは、どうなるんだろう)

大阪の叔母から、祖父が亡くなったと連絡が入った。その時私は、大好きな祖父を亡くした悲しさよりも、遺された祖母のことを考えていた。祖母は、認知症という病気だ。とても京都で一人暮らしができる状態ではなかった。翌日、私たちは京都へ向かった。葬儀を終えた母と叔母が時間をかけて話し合った結果、祖母を北海道に連れてきて、一緒に住むことになった。

祖母と共に暮らすのは、想像以上に大変だった。石けんや消しゴムなど食べられないものを口に入れ、同じ話を何度も繰り返し、勝手に家を飛び出したりと、そんなことが毎日のように続いた。最初のころは、まだ優しく対応していた。祖母が不安そうな顔で、

「おじいちゃんはどこ行かはったんや？」

と聞いてきても、悲しませないように、

「散歩に行ったんとちゃう？」

と、ごまかして納得させたり、弟の消しゴムを食べようとしていた時も、

「それ食べられへんから、このパン食べたらええよ。」

と、笑顔で優しく言ったりすることができた。

家族からは、

「どうやったらそんな対応できるの？すごい。」

と、言われるほどだった。

でも、そんな日々が続くと、ストレスがたまっていくようになった。毎日同じ質問を繰り返し、意味不明な行動をする祖母。だんだん祖母の存在がうっとうしくなり、以前のような対応ができなくなっていった。それは私の家族も同じで、父は祖母を避けて、自分の部屋に閉じこもり、弟もすぐくイライラしていて、母は常に疲れた顔をしていた。皆、祖母の言うことを聞き流し、無視したりするようになった。そんな暮らしが二年近く続いた。皆、限界だった。

そんなある日、母が少し悲しそうな声で、

「ばあなあ。京都のグループホームに入れるかもしれへん。」

と言い、私は(やった! やっといなくなるんだ!) と思った。

もうその頃は、何回聞いたかわからない、

「おじいちゃんはどこ行かはったんや？」

という言葉に、

「死んだんや。何度も言ったやろ? 何で覚えてくれへんの？」

ときつく言い、祖母の目を見ないようにして自分の部屋に逃げ込んでいた。離れて暮らせると聞いて、正直ほっとした。(いなくなってせいせいする) そんな風にも思った。その後、祖母は京都のグループホームに入った。

祖母と離れてしばらくした頃、私がふと、

「ばあがいないと家が静かでいいなあ。」

と笑って言うと、母がまた悲しそうな声で、

「小さい時は、美希はばあのこと大好きやったのに。いっぱいお世話になったのに。美希を初めて抱っこしてくれたのも、ばあやったんよ。」

私は、(はっ) とした。なぜ私は、あんな酷いことをしたんだろう。祖母に対する感情や行動には感謝のかけらもなく、恩を仇で返すって、こういうことなんだろうなと思った。祖母は、もう私が誰なのか忘れてしまっている。けれど、かすかに覚えている小さい頃の私を好きでいてくれたのだと思うと、今までの自分の行動が悔やまれてならない。いや、後悔するだけではなく、今までのお詫びと感謝の気持ちを伝えなければいけない。

次、祖母に会う時は、きっと私のことを忘れていようだろう。それでも良い。一瞬でも良いから、私の気持ちを受けとめて欲しい。

「ばあ。酷い態度になってしまって、本当にごめんね。でも、大好きだよ。今までありがとう。」

奨励賞

愛されている幸せ



おしやまんべ おしやまんべ
長万部町立長万部中学校3年

くろたに みゆ
黒谷 心優

みなさんは、親に愛されていることをあたりまえだと思っていませんか？もし思っている方がいるなら、私の想いを聞いてください。ある日、私がテレビを観ていた時のことです。とあるニュース番組を観ていると、画面に映っていたキャスターの方が、とんでもないニュース原稿を読み始めたのです。

「二歳の長女を殺害した疑いで、母親が逮捕されました。母親は、『言う事を聞かなかったので、腹が立って刺した。』と、容疑を認めています。」

私は言葉が出ませんでした。こんなにも無責任な親がいるなんて知らなかったからです。私はその瞬間、自分の親がどれだけ私を愛してくれていたのかを知り、なんだか怖くなりました。「私が今まで口にしてきた親への感謝は、心からの気持ちであったらろうか…？私は、ありがとうもまともに言えない偽善者だったのか？」ただただ自分を責めることしかできなかった私は、寝る前に布団に入ると涙がとまらない、そんな人生を送っていました。ですがある日、私の人生を大きく変える出来事が起こったのです。

それは、中学二年生の時、いつもより元気に学校へ行った日の事です。教室で、学校祭の合唱コンクールに向けて練習をしていました。すると、突然視界がぼやけ始め、周りの音がなにも聞こえなくなった次の瞬間、私は気を失って倒れました。幸い、二～三分で意識が戻り、親がすぐに学校へ迎えに来てくれましたが、倒れた時に打った頭の痛みと、親の顔を見る事ができた安心感とで気持ちがぐちゃぐちゃになり、涙がとまりませんでした。すると、父が私にこう言ったのです。

「朝から、心優になんかあるんじゃないかって…嫌な予感してたんだよね…。」

この言葉を聞いた私は、確信しました。私は

正真正銘、この人達の子供なんだ。口だけの偽善者なんかじゃない！

それからは、一人でひっそりと涙を流す事はなくなり、今までよりも親への感謝の気持ちが強くなりました。

私は、このような体験を通して、大きく分けて二つの事を学びました。それをみなさんにお伝えしたいと思います。一つ目は、親子の間で一番大切なのは、お互いに愛し合う事だ、ということです。私達子供にとって、親に愛される事ほど嬉しい事はありません。親に愛されている子供は、自然と親を愛します。私もそうです。ですが、さきほどのニュース原稿にもあった通り、この世には親に愛されなかった子供、子供を愛せなかった親がたくさんいます。ですから、子供に愛されている親は誇りを、親に愛されている子供は幸せを自覚してください。みなさんには、愛す・愛されるということがどれほど素晴らしいことなのか、一度考えてみてほしいと思います。

二つ目は、親への感謝についてです。これに關してはおそらく、

「親に感謝をしろって言いたいだけでしょ。」

と思う方がいるかもしれません。ですが、それは違います。私はみなさんに、なぜ親に感謝をするべきなのかを考えていただきたいのです。きっと、この問いの答えは人によって異なるでしょう。なぜなら、この問いに正解はないからです。親に愛されている自覚がある方は、自分なりにこの問いの答えを見つけ、自分なりのかたちで親に感謝を伝えてください。私も、親に感謝をすべき理由は「愛されているからだ」と分かり、自分が幸せであることを自覚する事ができました。これからは、親への感謝を愛で伝えていきたいと思います。

最後に一言、心からの感謝を言わせてください。お父さん、お母さん、いつもありがとう。

奨励賞

絶対は絶対にならない



おとべ
乙部町立乙部中学校2年
いたや
板谷
わかな
和奏

「絶対に勝てるわけない」

私はこの言葉の「絶対」について疑問を持った。絶対ってなんだろう。辞書で調べると「ほかに比較するもの、対立するものが無いこと」と書いてあった。

では、本当に世の中には「絶対」といえるものがあるのだろうか。

去年の秋、森町で剣道の大会があった。私はその大会の団体戦に先輩と同級生と私の三人で出場した。渡島管内の大会だったので強豪がたくさん集まる。「勝てるだろうか」そんな不安を抱えながら、団体戦が始まった。

一回戦、二回戦、三回戦。準決勝まで来ると体だけでなく、心も疲れてくる。団体戦といっても試合会場では対対。勝ち進んでいくと当たり前だが強い相手が待ち構えている。

強い相手となると、簡単には打たせてくれない。それに、強豪と呼ばれるチームは、人数自体が多い。応援もたくさんいて、その人たちの視線がグサグサと刺さり、私は心が苦しくなっていた。

準決勝、何とか勝つことができた。次の対戦相手がどのチームなのか、トーナメント表を見ると、決勝で待ち構えていたのは森町のチームだった。森町のチームは、とても強く全道規模の大会で優勝経験のある選手がいる。

私は今までその人達と戦って勝ったことが一回もなかった。せっかく決勝まで三人で来ることができたので「勝ちたい」と思ったが一方で、「絶対に勝てるわけない」と思ってしまっている自分もいた。

「正面に礼。互いに礼」

ついに決勝が始まった。私の相手はそれまで戦ったことのない選手だった。その人の強さが

どれ程か、打ち合ってみるまでまったくわからない。試合会場の周りには、女子団体戦出場チームがとり囲んで見つめていた。押しつぶされそうになっている時、私の脳裏にある言葉が浮かんできたのだ。

「絶対は絶対にならない」

有名な戦国武将、織田信長の残した言葉である。「絶対に大丈夫なことと、絶対に不可能なことは絶対にならない」という意味だそうだ。己の信念を貫き、度重なる逆境を跳ね返し、天下統一まであと一歩というところまで上り詰めた、私の尊敬する歴史上の人物の一人である。

私はこの言葉を自分に言い聞かせながら、覚悟を決めて「面！」と打ち込んだ。

審判が「面あり！」と旗を揚げて言った。うれしくて泣きそうだった。

続く同級生は、数々の優勝経験を持つ強敵相手に粘り強く、果敢に攻め、最後まで耐え抜いた。先輩も鋭い面で一本取ってくれた。

私たちは勝てたのだ。

この時、私は初めて「絶対って覆るものなのだ」ということを知った。これ以来「絶対は絶対にならない」という言葉が私を支えてくれている。

何事もやってみなければ、分からない。諦めてしまえば、達成することさえできずにそこで終わってしまう。失敗を反省することすらできない。まず挑戦しよう。挑戦することで、自分の世界には無かった新しい事や自分の可能性を広げられるかもしれないのだから。

奨励賞

今、私達にできること



あさひかわ かむいひがし
旭川市立神居東中学校3年
さいとう めい
齊藤 愛唯

私達十代は大人のような力もなければ、討論をしてこの世の中を動かすこともできないと、私は思っていました。いえ、今もまだ少し思っています。

以前から、私はニュース番組で、ちょうど私と同年代の子が自殺をして亡くなったという内容を目にしていました。もちろん同年代ということもあり、悲しく胸も痛くなりました。そして、それと同時に私の中には、

「なぜこんな悲しい決断をしなければいけないのか。どうしてこの子が自ら亡くならなければいけないのか。」など腹立たしい感情がこみあげてきたのです。亡くなってしまった人にしてあげられることは少ないかもしれませんが、今辛い思いをしている人やもう世の中から消えてしまいたい、死んでしまいたいと思ってしまう人にできることは、大いにあるはずです。だからこそ今、私は伝えたいことがあるのです。

生きていたくないと思っている人に伝えたいこと。それは、自殺は選ぶ必要のない判断だということです。このまま生きている位だったら死んでしまおうと思ってしまう気持ちもよく分かります。私自身、少し無理やがまんをしながらも仲が良く、つきあってきた友人に突然裏切られ、「もう居場所がない。」「なぜなのか理由も分からない。」と、自分だけを責めたことがありました。ただ、先生や親が気付いていたこと、周りの友人が気にかけてくれたことで辛い中でも強い気持ちで過ごそうと思えました。そう思わせてもらえたことでその友人と向き合って話をし、あの時自分に理由がなかったことがわかり、謝罪や本当の気持ち等を聞け、また友人関係に戻りました。今はずっと支えてくれているかけがえのない親友たちもそばにいてくれて、私は周りの人のおかげで乗り越えられたと思います。だから幸い今だけが全てではないし、

乗り越えた先には違う道があるはずです。ただ、自殺をして亡くなってしまった人、今自殺しないと追い込まれている人は私達が想像できない苦しみの中、誰にもいえずにいるのだと思います。ですが、今すぐには見つからなくてもあなたの気持ちに寄り添ってくれる人は少なからずいるはずです。人それぞれ幸せの形も感じ方も違いますが、待っている仲間に出会うためにもせめてサインを強く、強く出してみてください。

では周りの人がそのように思っている人にできることはないのでしょうか。私が思うのは、周りの人も勇気を持って行動を起こすこと、辛い思いをしている人達がもっと相談できる場所や安心して駆け込める場所を増やしたり、伝えたりするべきだということです。今はまだそのような場所も少なく、あっても知らないという人が多いと思います。それはなぜなのでしょう。私は伝える機会が少ないからだと思います。だから辛くてもどこにも行けない、話すことができないのではないのでしょうか。もっと学校の授業の一環として知る機会や考える時間を設ける。テレビならば事件の重大さはもちろん、苦しい思いをしている人に、助けてあげられる場所は必ずあると、自殺は選ぶ必要がない判断なのだと情報を発信し、呼びかけるなどの工夫をもっとしてほしいと願います。

大人は自分の持っている力で生活や世の中を変えられることができるかもしれませんが、今の私達ができることは限られています。しかし、できることはたくさんあると思います。同年代の私達だからできること。それを今、私を含め、同じ世代の人がさらには、いろいろな世代で深く考えるべきことなのではないのでしょうか。

奨励賞

私を支えるもの



はぼろ てうり
羽幌町立天売中学校3年
かわぐち ゆうか
川口 優夏

みなさんの家は、何人家族ですか。最近はお親と子どもで住む「核家族」や、学校に家の鍵を持って行き、自分で鍵を開けてお親の帰りを待つ、「鍵っ子」という子どもも増えています。

私は、島の中でも唯一の「四世代同居家族」の中で育ちました。両親と祖父母で自営業を営んでいたため、私と弟は曾祖父母と、お絵かきや散歩や砂遊びをして育ちました。私が少しくしゃみをしたら服を何枚も着せて温かくしてくれたり、私が走り回っていると「転んだら怪我する。」と心配してくれたり、祖父母や両親はもちろん、曾祖父母も含めた家族全員が私と弟のために尽くしてくれて、私は本当に幸せでした。

ですが、私は成長していくにつれ、その曾祖父母の優しさに気付くことができなくなってきました。「寒いからこれ着な。」と古いジャンパーを勧められたり、「身体に良いから。」と煮物を勧められたりする度に、「いらないし。」と思いました。学校生活のことや勉強のことで、「ちゃんと真面目に授業を受けているか。」「勉強はしっかり毎日やっているか。」などと質問されるのも、干渉されているようでとてもイライラするようになりました。

しだいに、曾祖父、曾祖母は、身体を自由に動かすことが難しくなっていました。トイレに付いていたり、支えながら階段と一緒に登ったりと、だんだん面倒くさいと思うことも増えていきました。

今まで色々な物を買ってくれたり遊んだりしてくれた祖父母や両親も、曾祖父母に付きっきりでいたり、病院に連れて行ったりと、私たちにかまっている時間が無くなっていきました。私は、両親や祖父母を取られたような気持ちになり、だんだんと曾祖父母と話す回数も減っていきました。

そんなある日、曾祖母が島の外の病院に入院

することになり、私たちはお見舞いに行くことにしました。「気まずいな」と思いながらも、曾祖母と話をし、帰ろうとした時でした。曾祖母は、目に涙を浮かべながら、私に、

「もうこれで会うのは最後かもしれない。」と言いました。私は、頭が真っ白になりました。そして、ふと考えたのです。私は、曾祖母に恩返しのできたのだろうか。小さい時に、へとへとになっても遊んでくれた曾祖母に、何か返すことができたのかと。

私は、なんてひどく、馬鹿らしいことをしていたのだろうと、その時痛感しました。今度は、私が返していく番だ。そう思い、

「天売に帰ったら、また一緒にお菓子を食べてようね。」

と言い、病室をあとにしました。その数日後曾祖母は天国へと旅立ちました。私は、曾祖母に謝ることさえできませんでした。

人間は誰でも、一人で生きることはできません。周りの家族や友達、先生、支えて下さる多くの人のもとに生かされています。頭では分かっているけど、なかなかそこに気持ちが向かず、不平、不満、文句ばかり言いがちになってしまうことがあります。

辛い時、苦しい時、心が折れそうな時、私は家族や友人、先生、周りの大好きな人のことを考えます。私の成長をいつも隣で見守ってくれている人がいる。一人じゃない。そう思うと、また明日からがんばろう、そう思えるのです。

人にはいつか終わりが来ます。それは突然訪れるかもしれません。私は、これから愛情をくれた人たちに、それと同じ分の感謝の気持ちを伝えられる人になりたいです。そして私も誰かの成長を見守ることのできる人間になりたいと思います。

奨励賞

出会いと別れがつくり出すもの



はまとんべつ はまとんべつ
浜頓別町立浜頓別中学校3年

すずき まな
鈴木 愛奈

皆さんは、ずっと一緒にいた人と別れて、悲しい寂しいと思ったことがありますか。

私がまだ小学三年生だった頃の出来事です。その時の私は、友達と外で遊んだり、一緒に習い事に行ったり、休みの日はお泊まり会をしたりと、ほぼ毎日を友達と過ごしていました。とても楽しくて、たまに喧嘩もしましたがすぐに仲直りをして、私にとってそれは、掛け替えのないものになっていました。しかし、その毎日はある出来事が起こって変わってしまいました。それは、父の会社から転勤の知らせがきたことでした。それを聞いた私は、驚きで声が出ませんでした。これからどうなっていくのかわからなくて不安でいっぱいになりました。友達にその話をすると「そうなんだ。」と悲しい顔をされました。そして私の中に悲しみが生まれ、時が経つにつれどんどん強くなっていきました。「別れたくない。」今までずっと一緒だった仲間たちと離れたくないという気持ちで、胸がいっぱいになりました。そんな時に私を支えてくれたのは友達です。いつもと変わらない明るさと優しさで接してくれて、悲しみを共感してくれて、この時初めて友達と出会えてよかった、大切にしないとなくなって思いました。大切なものはすぐ近くにあるというのに今まで気づけなかったけど、こういうことなんだなと思いました。別れる時はものすごく悲しくて、涙を必死にこらえました。

次に私が小学四年生になった時の出来事です。右も左もわからない小さな町の小学校に転校した私は「友達ができるだろうか」「クラスになじめるだろうか」知らない人たちに囲まれて、緊張と不安でいっぱいでした。そんな私に友達になろうと手紙をくれたり、一緒に帰ろうと声をかけてくれる子がいました。最初はうまく喋ることができませんでしたが、声をかけてくれてすごく嬉しかったです。休日には一緒に

遊ぶようにもなりました。今では大切な親友です。ここに来てよかった、いつの間にかそう思えるようになりました。

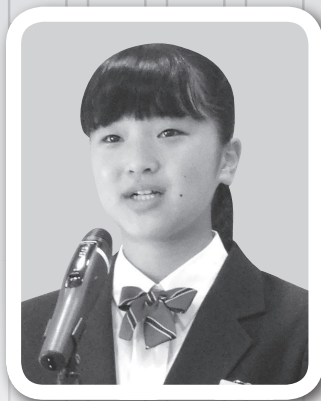
私がこの出会いと別れを経験して学んだことが二つあります。一つ目は別れはただ悲しいだけのものではないということです。別れの後には必ず出会いがあるのです。私もこうして素敵な友達と出会えました。だから、こう思います。別れを怖がらなくていいんです。そして、前向きに考えていいんです。もちろん別れは辛いけれど、これは新たな出会いの始まりだと思うとなんだかワクワクしませんか。そして、その出会いと別れが、自分を成長させるためのチャンスになると思いませんか。二つ目は、一期一会の出会いを大切にすることです。一期一会には、一つの出会いは一生に一度しかない出会いと思って、心を込めて真面目に向き合うという意味があります。私たちは、いつか別れてしまうこととなります。決して避けられないことです。だからこそ、後悔しないように人と接することが大切なのです。

今後、私達は進学や就職など、たくさんの出会いと別れを経験することになるでしょう。その時、その経験がこれからの自分にとって掛け替えのないものとなるように、出会えた人に感謝の気持ちを忘れず一日一日を大切に過ごしていきたいと思えます。

出会いと別れがつくり出すもの、それは、人の大切さを知ることができるとても温かいものなんじゃないかと思えます。

奨励賞

伝える



おびひろ おびひろだいよん
帯広市立帯広第四中学校3年

ふじい かずは
藤井 一葉

伝えること。それを受け取ること。人が生きていくために必要なことであり、誰もが当然のようにしていることです。

私は、父と話すことが大好きでした。父は忙しい人で、話す時間は多くはありませんでした。それでも、ちょっとした時間には父の書斎へ。時間を忘れて話をしました。

父の話には、私にとってそれまで関心なかったことや、曖昧にしか知らないことがたくさんありました。

「努力し続けると結果はどう伸びるか」

「勉強ができて性格が悪いとどうか」

「震災で被災した街はどうしたら復興できるだろう」

そんな話は小学生には難しく、当時は分からないことばかりでした。

それでも、そのひとときは本当に楽しく、貴重な時間でした。普段、あまり話せないのも、それだけでもうれしかったです。

きっと父は、私が話を理解しきれないのを知っていたと思います。ですが、真剣に話してくれました。だから、私もいつも必死で聞いていたことを覚えています。

そんな父が、死にました。私が小学六年生の五月。あまりにも突然で、全く信じられませんでした。しばらくの間は、車を止める音を聞いても、玄関を開ける音を聞いても、

「あ、お父さん」

と思っは、そうではないことに気づき、悲しくなることの繰り返しでした。

父とはもう二度と話せません。後悔だらけです。なんでもっと話さなかったんだろう。なんでもっと話を聞かなかったんだろう。伝えたいことも、受け取りたいことも、まだたくさんあるのに。悔しくてたまりません。

父が真剣に伝えてくれたのは、死を予感したからではないはず。ただ私を愛し、伝えて

くれました。だから当時の私でも本気で受け取れたのでしょう。

父は私に、「伝える」ことの大切さを教えたかったのではないかと思います。そして、時間が過ぎる中で私が感じてきたことが、思うことが、私が「受け取れたこと」であり、父の「伝えなかったこと」だと思のです。話した時間が短くても、父の思いは確かに受け取れました。そのことが、今を生きる私の支えになっていると感じます。

こうして、人と人とは、相手が大好きだという気持ちを伝え合い、受け取り合います。これこそが、家族や友人、大切な人たちとの絆をより深く、強くするのではるのではないのでしょうか。

そうは言っても、私はまだ中学生です。家ではきょうだいに「うるさい」と怒鳴ってしまうし、部活では、「もっと真面目に練習しようよ」と言いたくても、嫌がられたら、と考えると言えなくて、思いを伝えられないことが何度もあります。

だけど、そんな自分は嫌です。なぜなら、大切な人には本当の気持ちも伝えたいから。そして、大切な人の本当の気持ちを受け取りたいから。そんな自分にこれからなりたいです。

これが、父の死を受け取め、進み続けるための決意です。

この決意が父に伝わり、父と私とのつながりをより確かにすると信じて…。



講評

審査員長 北海道中学校長会幹事（苫小牧市立光洋中学校長）

おおむら ひろよし
大村 浩喜

このたび、9月6日の北海道胆振東部地震発生に伴い、被災された地域の皆様には、心からお見舞い申し上げます。被災地の一刻でも早い復興を願ってやみません。そうしたたいへんな状況から、9月7日に実施予定でありました今年の「少年の主張」全道大会は、急遽書類選考になりました。このことにつきまして、皆様方には特段のご理解をお願いし、書面に全体講評をさせていただくことをどうかお許しください。

まずはじめに、各地区から選ばれた皆さんの作品は、その内容はもとより、全員の個性がきらりと光る、たいへん素晴らしいものでした。自分の率直な思いを文字にして、おそらく何度も推敲を重ねてこられたことと思います。皆さんの主張は、自らの体験に裏打ちされ、物事に対してぶれない軸を感じさせる力強い主張であるとともに、心の豊かさや柔らかさを感じ、読み手に大きな感動を与えてくれました。また、中学生らしい鋭い感性としなやかな心から発せられるメッセージに心を打たれました。ほんとうにありがとうございます。

今回の大会においては、家族愛をはじめ、発達障がいや認知症を含む日常生活において直面する身近なテーマ、差別や自殺、いじめなど深刻な社会問題に関わるテーマ、言葉やコミュニケーションの大切さ、校則・部活動・食育といった学校生活全般に関わるテーマなど、とても幅広い内容から選ばれております。

このことは、今の時代を生きている私たちがまさに直面している課題でもあり、審査員として改めてその内容について深く考えさせられたところです。

さて、今回の書類審査についてですが、論旨において次の観点から審査員5名で審査をいたしました。

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか（中学生らしさ）。
- ② 新しい情報や視点があるか。
- ③ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ④ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ⑤ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

結果につきましては、別紙のとおりですが、どの内容も甲乙つけがたく、審査員一同頭を悩ませながら審査を行いました。とりわけ、最優秀賞を受賞された洞爺湖町立洞爺中学校 毛利郁也さんの作品「命の給食」は秀逸で、実に説得力があり、一貫性のある内容でした。地元で採れた新鮮な野菜が食材として使われている学校給食とおして、「食」についてさまざまな視点から自分の意見を堂々と述べていました。愛情を込めて野菜を育てた地元生産者へ思いを馳せる毛利さん。自らの家の農作業に汗を流し、そのたいへんさを理解しながら、給食のありがたさや心に感謝していました。さらに、食品ロスで問題になっている社会全体に警鐘を鳴らしつつ、ふるさと洞爺で作られた「命の給食」に改めて誇りと喜びをかみしめている様子が伝わってきました。自らの経験をおして「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる力を育むことを目指す、というまさに食育のテーマそのものであるとの印象を受けました。

毛利さん、ほんとうにおめでとうございます。今後は北海道の代表として全国大会へ向けて駒を進めることになりましたが、健闘をお祈りいたします。そして、優秀賞・特別賞に選ばれた4名の皆さん、おめでとうございます。奨励賞になった11名の皆さんも、心に訴える素晴らしい内容でした。

最後になりますが、本大会のために熱心にご指導された先生方、温かく励ましてくださったご家族の皆様、本大会運営にご尽力された北海道青少年育成協会の皆様から心から感謝申し上げます。さらには各地区の代表として参加された中学生の皆さんの輝かしいご活躍を祈念し、全体講評とさせていただきます。

全道各地から選ばれた代表16名お一人お一人の主張につきまして、講評をさせていただきます。

① 斉藤 愛唯さん テーマ「今、私達にできること」

大きな社会問題になっている自殺について、斉藤さんなりの考えを堂々と述べ、悲しい思いをしないために、させないために、自分たちにできることは何かという視点で内容が構成されていました。悩みを聞いてあげること、心に寄り添うことの重要性について訴えていました。周りの人と優しさを分け与えられるような社会の実現が求められると強く感じました。

② 藤塚 麗瑠さん テーマ「伝えるために生きていく」

障がい者に対する理解が進んでいなかった現実と、その反対に、優しく温かい言葉をかけてくれた多くの方々の感謝の気持ちを表現していました。藤塚さんの人権に対する率直な思いが表現された、とても説得力のある内容でした。しっかりと将来の目標をもち前向きに生きていこうとする姿勢に、力強さと積極性を感じることができました。

③ 川口 優夏さん テーマ「私を支えるもの」

小さい頃から曾祖母に面倒をみてもらっていた川口さんが、日頃のやりとりを通して、家族や友達、先生などへの感謝の気持ちを表現していました。天国のひいおばあちゃんはきっと川口さんの主張を喜んで聞いていたことでしょう。愛情をいっぱい受けて成長している川口さん、これからも周りの人に感謝の気持ちをもって、恩返しをしてほしいと願っています。

④ 田元 克さん テーマ「あたりまえという名の奇跡」

田元さんが帰宅したときに、いつもはあたりまえにされていたお母さんとのお話、入院によって不可能になってしまいました。日常から非日常へと変わってしまった現実と直面したことで、今までの平和な生活にありがたさを感じているという内容でした。中学生らしい視点で、自分たちの日常生活の意義を見直し、振り返ろうとする姿勢に感銘を受けました。

⑤ 黒谷 心優さん テーマ「愛されている幸せ」

黒谷さんが普段から両親の愛情を受けて生活し、微笑ましい親子関係を想像できる、とても心が温まる内容でした。その一方で、親子関係の崩壊が原因で起きている世の中の事件が、ただただ残念に思えてなりません。自らが父親に助けられた体験をもとに、親への深い愛情と感謝の気持ちが自分の言葉で綴られていました。

⑥ 下橋 菜衣さん テーマ「なぜ同じではないのか」

校内生活において疑問に感じている髪型のきまりについて、下橋さんは自分なりの意見を堂々と述べていました。髪型に限らず、中学生らしさとはどのようなことなのかを日常の学校生活の中で見つめ直し、学級内で意見交換してみてもどうでしょうか。そうすることで思考の幅がさらに広がり、充実した学校生活につながっていくことでしょう。

⑦ 車塚 花瑠香さん テーマ「私達の方で」

Aくんに対する級友の差別的な対応を見ていた車塚さん。勇気をもって行動を起こしたおかげで、差別を解消できたことにも、あなたは素晴らしい行動力の持ち主だと思います。「人間は違うからこそ面白い。すべての人に素晴らしいところがあり、そこを認め合うことが差別をなくするための鍵なのです。」という言葉を読んで、私は大きな感銘を受けました。

⑧ 藤井 響さん テーマ「言葉の持つ力」

相手の顔を見て、自分の気持ちを言葉で伝えることはコミュニケーションの基本です。自らの体験談をもとに、コミュニケーションの大切さについて強調していました。特に、3度の転校をプラスに考え、多くの人と出会い交流したことで、現在の藤井さんの人間性が培われたと感じました。今後、言葉というツールを活用し、グローバルな活躍をされることを期待しています。

⑨ 神谷 美希さん テーマ「伝えたい言葉」

高齢化社会と言われる昨今、認知症の方への対応はどの家庭にでも起こりうるものです。神谷さんはその難しさをわずか中学2年で実感するとともに、祖母に対する思いが感じられる内容です。特に、祖母に対する家族や自分自身の接し方の変化に気づき、自らの行動を振り返ろうとする姿勢はたいへん立派です。きっとあなたの気持ちはおばあちゃんに伝わると思います。

⑩ 鈴木 愛奈さん テーマ「出会いと別れがつくり出すもの」

お父さんの仕事の関係で転校を余儀なくされた経験から、鈴木さんは友達との悲しい別れを味わいました。でも、その別れによって友達との絆に気づき、別れをただ悲しいのではなく、すてきな出会いが待っている、と考えられるようになりました。自分を成長させるためのチャンスとして物事を前向きに捉えられるようになったことは、たいへん素晴らしいです。

⑪ 楓川 奈央さん テーマ「どんな人でも」

「どんな人でも、みんな同じ重さの命をもっている。」という最後の一文に楓川さんのすべての思いが詰まっているように思います。相模原市のやまゆり園で起きた殺人事件を通して、日本中が大きなショックを受け、悲しみに包まれたのはつい最近のことです。日常の中で私たちがどう障がいと向き合い、どう生活していくのかという課題について、鋭い視点から論を展開していました。

⑫ 板谷 和奏さん テーマ「絶対は絶対がない」

板谷さんが、剣道の大会に出場したときの気持ちを素直に表現しています。だんだんと勝ち進むにしたがい強い相手と対戦するとき、不安や緊張で押しつぶされそうになった心を自分で奮い立たせ、見事に結果に結びつけたときの大きな喜びが伝わってきました。新たなことに挑戦することで自分の可能性を広げられることができるという内容に力強さを感じました。

⑬ 毛利 郁也さん テーマ「命の給食」

毛利さんの主張から、全校給食で生徒と先生がとても和やかな雰囲気でも過ごされている様子が想像できます。ふるさと洞爺で採れた新鮮な野菜に生産者の思いを理解したり、給食をおして栄養やバランスについて考えたりするなど食に対する意識の高さも感じられます。また、社会問題となっている食品ロスの扱いについて、鋭い視点からメスを切り込み、食について深く考えさせられました。

⑭ 松原 響稀さん テーマ「感情と行動」

日常生活の中で、認知症の祖母とのやりとりをしているうちに自分の心の風船が割れてしまったという松原さん。でも、お母さんの冷静な対応を見て、はっと気がつき、自分を振り返ることができました。相手の状況や立場を思いやり、感情をコントロールすることの大切さを訴えかけていました。これからもおばあちゃんを大切にしてください。

⑮ 松村 未来さん テーマ「発達障害と向き合おう。」

ある女性との出会いから、発達障がいに対する今までの考え方がガラッと変わり、勇気を出して向き合おうとした松村さんの行動力が素晴らしいと思いました。その人の個性や優しさを身をもって感じることでできた体験は、あなた自身の貴重な財産になるはずです。自信や誇りをもって暮らせる社会を実現させる原動力になることを願っています。

⑯ 藤井 一葉さん テーマ「伝える」

藤井さんにとって、小学生の時にいつも真剣に自分にいろいろな話をしてくれたお父さんとの時間は、格別でかけがいのないものだったに違いありません。それがたとえわずかな時間だとしても、お父さんの思いが今もあなたの中に刻まれ、これからは人生の糧として生き続けていくことと思います。家族の愛情を感じさせる素晴らしい内容です。

人生を駆け抜ける

山形県天童市立第三中学校3年

岩淵 礼姫

「死にたい」、私はつぶやいた。期待に胸をふくらませていた中学校生活。しかし、そこにまっていたのは卑劣ないじめだった。指をさされ笑われた。トイレのドアをたたかれ罵声をあびせられた。すれ違うたびに馬鹿にされた。毎日苦しかった。悔しかった。もう死ぬしか逃げ場所がなかった。

そんな限界まで追い込まれた私は、ある日の朝爆発した。声が枯れるくらい泣きじゃくり、母に全てを打ち明けた。母は私の話を受け入れ、強く抱きしめてくれた。久しぶりに触れた人のぬくもりに、涙が止まらなかった。

その後、私はたくさんの人に助けられた。いじめをした人に直接注意してくれたクラスメイト、私のことを一番に考え、守ってくれた両親、陰ながら支えてくださった保護者の方々、相談に乗っていただいたり見守ってくれたりした先生方。その人たちのおかげで、「私は独りじゃない、心を閉ざさず自分を表現していいんだ。」ということに気づかされた。そして、私は一歩前に踏み出すことができた。本当に感謝してもしきれない。

いじめを受けていた頃は、人に心を開けず、友達なんか一人もいなかった。でも、三年生になった今では、心を開けるようになり、親友と呼べるまでの大切な友達もできた。自分の存在が疎ましく、毎日通うのが苦痛だった学校も、今では、安心できる居場所となった。学校が楽しくて仕方がない。私は今、とても幸せだ。

いじめの経験は私を成長させてくれた。自分が変わるためには誰かからの助けを待つだけではなく、自ら一歩を踏み出さなければならないこと、自分を偽らず正直に表現すること、そして、一番大切なことは私自身が周りの人を思いやること。私はいじめの経験から大切なことを学ぶことができた。

いじめをする理由は様々あると思う。「社交的じゃない」「容姿がみんなと違う」「一部分がみんなより劣っている」。でも、それは当たり前のことではないのだろうか。

金子みすゞさんの詩に、「みんな違ってみんないい」という言葉がある。それぞれが別々で、でもそれに優劣はなく、すばらしいのだ、という意味である。みんなが同じ顔、同じ容姿、同じ性格では社会は成り立たない。だからこそ、互いを認め合いながら生きていかなければならない。それぞれに個性があるから社会が成り立っているのだ。

私は、いじめを見ている人、いじめをしている人、いじめをされている人、それぞれに伝えたいことがある。まず、いじめを見ている人。今、少しでも助けたいという気持ちがあるなら、勇気を出して、いじめられている人に声をかけてあげてほしい。いじめられている人は「私の味方は誰もいない」という孤独感でいっぱいだと思う。声をかけてあげるだけでも心が楽になるはずだから。そして、決していじめめる側の人間にならないでほしい。

次に、いじめをしている人。いじめは立派な犯罪だ。それでも、まだ、あなたは人を傷つけますか。自分のやっていることが人として本当に正しいかどうか、考え直してほしい。あなたのその一言が、あなたのその行動が、相手の命を奪うかもしれないということに気づいてほしい。

最後にいじめをされている人。今苦しくて悔しくて、もうこんな人生捨ててしまいたい、そう思っているかもしれない。私もそうだった。でも、死んで何になる。あなたが死んでしまったら、どれだけたくさんの方が悲しむか考えてほしい。あなたのたった一つの尊い命を捨てないでほしい。

「生きていて良かった」そう思える日が必ずくるから、全力で生きて。逃げていいんだよ。人生は自分の努力次第でどうにでもなるから、今は自分の命を大切にしてほしい。

私も、この経験から学んだことを活かし、たくさんの人に支えられ、助けられた自分のたった一つの命を大切に、自分は自分らしく幸せになるために、しっかりと私の人生を駆け抜けていきます。

大会のねらい

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、社会や環境が大きく変化する現代社会にあつて、次代を担う少年には、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身につけることが大切であることから、少年が社会に向けての意見、未来への希望などを発表してもらう機会を設け、少年の健全育成及び非行防止に対する道民の理解を深める契機となることを目的としています。

(国際児童年の昭和54年から毎年開催)

大会のあらまし

■総合振興局・振興局地区大会 地区代表者の選出

■全道大会

地区代表者16名の参加

最優秀賞1名(北海道・東北ブロック代表選考に推薦)

優秀賞3名、特別賞1名を選定

(なお、上記5名には、併せて「北海道コンサドーレ札幌賞」を贈呈)

■全国大会出場者の選出

全国を5つのブロック(北海道・東北/関東・甲信越/中部・近畿/中国・四国/九州)に分けて都道府県代表者の主張原稿及び録音テープを審査し、各ブロックの代表者12名を選出

■全国大会

平成30年11月11日(日)、東京都(国立オリンピック記念青少年総合センター)において開催
各ブロックの代表者12名参加(内閣総理大臣賞ほか各賞決定)

審査員

■審査員長

大村 浩 喜(北海道中学校長会幹事/苫小牧市立光洋中学校長)

■審査員(50音順)

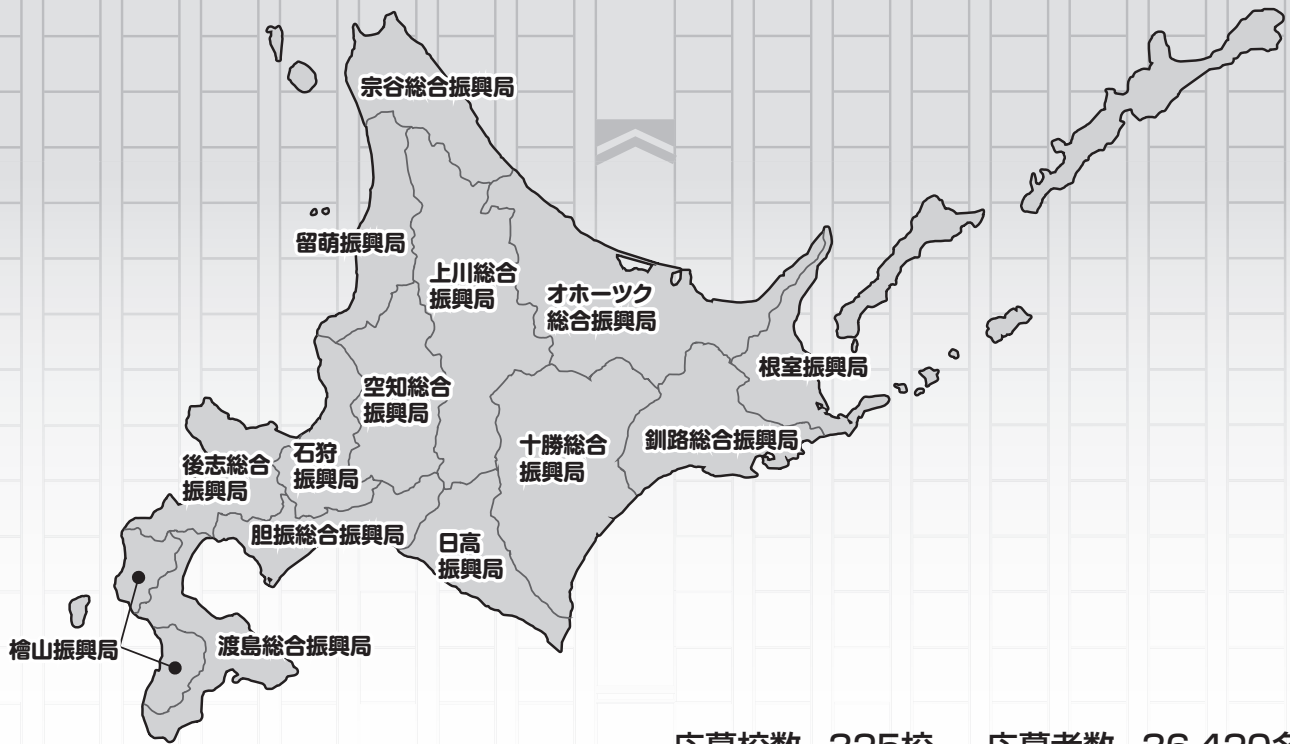
相内 修 司(北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課長)

青野 努(北海道環境生活部くらし安全局道民生活課青少年担当課長)

伊藤 裕 基(北海道PTA連合会事務局次長)

嵯峨 仁 朗((公財)北海道青少年育成協会理事/北海道新聞社編集局くらし報道部長)

平成30年度「少年の主張」総合振興局・振興局地区大会開催状況



応募校数 325校 応募者数 36,420名

総合振興局・振興局名	開催日	開催場所	発表者 (人)	審査員 (人)	聴取者 (人)
空知総合振興局	7月18日(水)	南幌町農村改善センター	13	5	340
石狩振興局	7月 5日(木)	道庁赤れんが庁舎 1号会議室	7	4	69
後志総合振興局	7月31日(火)	倶知安町公民館 (文化福祉センター 大ホール)	12	5	130
胆振総合振興局	7月20日(金)	むろらん広域センタービル3階会議室A	10	3	39
日高振興局	7月 7日(土)	日高振興局4階講堂	7	5	60
渡島総合振興局	6月15日(金)	森町公民館 講堂	12	4	500
檜山振興局	6月21日(木)	乙部町公民館	16	5	200
上川総合振興局	7月19日(木)	上川合同庁舎 3階講堂	23	4	75
留萌振興局	7月27日(金)	留萌合同庁舎 2階講堂	8	5	73
宗谷総合振興局	7月19日(木)	稚内市立稚内東中学校	10	5	280
オホーツク総合振興局	7月19日(木)	網走市立第一中学校	10	3	235
十勝総合振興局	6月30日(土)	十勝総合振興局 3階講堂	18	4	89
釧路総合振興局	7月25日(水)	北海道立釧路高等技術専門学院 講堂	8	5	65
根室振興局	7月19日(木)	別海町中央公民館 大集会室	10	6	350
合 計			164	63	2,505

平成30年度少年の主張実施要領

1 目的

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、社会や国際的な環境が大きく変化する現代社会にあって、次代を担う少年には、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していき、健やかな成長が求められている。そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身につけることが大切であることから、少年が社会に向けての意見、未来への希望などを発表する機会を設け、少年の健全育成及び非行防止に対する道民の理解を深める契機となることを目的とする。

2 共催

北海道、公益財団法人北海道青少年育成協会、独立行政法人国立青少年教育振興機構

3 主管

総合振興局・振興局地区大会は各総合振興局・振興局、全道大会は環境生活部とする。

4 対象

北海道内に在住の中学生

5 名称

少年の主張

6 実施方法等

(1) 総合振興局・振興局地区大会

各総合振興局・振興局管内（札幌市を除く）の中学生を対象に意見を主張する場を設定する。

ア 実施方法

大会形式により実施する。

イ 募集

- ・教育局の協力を得て、管内市町村教育委員会等を通じて、各中学校に対し、周知を図る。
- ・各市町村単位、各学校単位で実施している主張大会、弁論大会等と連携した募集の他、自由公募などにより募集する。
- ・広報媒体を利用した募集に努める。

ウ 発表内容

- ・社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など
 - ・家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友だちとの関わりなど
 - ・テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など
 - ・本年が北海道命名150周年の記念すべき年であることを踏まえて考えたことなど
- 上記のような内容で、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを少年らしい自由でユニークな、飾り気のない言葉でまとめたもの。
- ※ 商業的な固有名詞の使用は極力避けることとする。
 - ※ パフォーマンスや小道具の使用を取り入れてもよい。

エ 発表時間

5分程度（400字詰原稿用紙4枚程度）

※全国大会の規定が4分30秒～5分30秒までであるため、振興局地区大会代表者の時間が範囲に入らない場合は、全道大会出場に向けて必ず時間調整を行ってください。

オ 審査

- ・関係機関等に、選考に係る審査員の推薦を依頼する。
- ・審査により、順位付けし、最優秀者1名及び優秀者2名を決定する。

カ 審査基準

(ア) 論旨

- ・鋭い感性で、新鮮な主張であるか。（中学生らしさ）
- ・新しい情報や視点があるか。
- ・個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ・提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ・論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

(イ) 論調

- ・主張の内容が共感と感銘を与えているか。
- ・説得力ある話し方であったか。
- ・話し振りに熱意と迫力があるか。

キ 実施月

原則として7月の「青少年の非行・被害防止道民総ぐるみ運動強調月間」に実施する。

ク 表彰

- ・最優秀者1名及び優秀者等に対して賞状等を授与する。
- ・表彰に当たっては、賞状の他、副賞の授与、また、出場者数、地域の実情等に応じ、予算の範囲内で工夫して差し支えないこと。

ケ 推薦

最優秀者を全道大会出場者として、平成30年8月10日（金）までに、環境生活部に推薦する。
 なお、最優秀者が全道大会に出席できない場合は、順位に基づき優秀者等から上位者1名を推薦する。
 また、総合振興局・振興局地区大会の開催内容を記載した資料も添付すること。

(2) 全道大会

各総合振興局・振興局から推薦された最優秀者及び札幌市の代表者2名を対象に意見を主張する場を設定する。

なお、札幌市の代表者については、札幌市中学校長会に推薦を依頼する。

ア 実施方法

大会形式により実施する。

イ 発表内容

総合振興局・振興局地区大会と同様

ウ 発表時間

総合振興局・振興局地区大会と同様

エ 審査

- ・関係機関等に、選考に係る審査員の推薦を依頼する。
- ・審査により、順位付けし、最優秀者1名及び優秀者等を決定する。

オ 審査基準

総合振興局・振興局地区大会と同様

カ 実施月日

平成30年9月7日（金）開催の「北海道150年記念 北海道青少年育成大会」において実施する。

キ 表彰

- ・最優秀者1名及び優秀者等に対して賞状及び副賞を授与する。
- ・入賞者以外には、奨励賞を贈呈する。

ク 推薦

最優秀者は全国大会出場候補者として、独立行政法人国立青少年教育振興機構に推薦する。
 なお、最優秀者が全国大会に出席できない場合は、順位に基づき優秀者等から上位者1名を推薦する。

ケ その他

発表者及び随行者には旅費を支給する。

7 その他

- ・主張発表者の原稿は400字詰原稿用紙（A4）縦書きで、本人自筆による原本（障害等による場合はワープロ可）とする。
 ※全道大会出場者については、A4サイズ以外の原稿では出場できません。異なるサイズの場合は、A4サイズに書き直した原稿が必要となりますので、ご留意ください。
- ・応募作品は、未発表のものに限る。
- ・応募された作品は、原則返却しないこととし、北海道に帰属するものとする。
- ・原稿の書き出しについては右のとおりとする。

4 行 目	3 行 目	2 行 目	1 行 目
作文		北海道	タイトル
～		学校	
	氏名	学年	

「少年の主張」全道大会 歴代最優秀賞並び優秀賞受賞者名簿

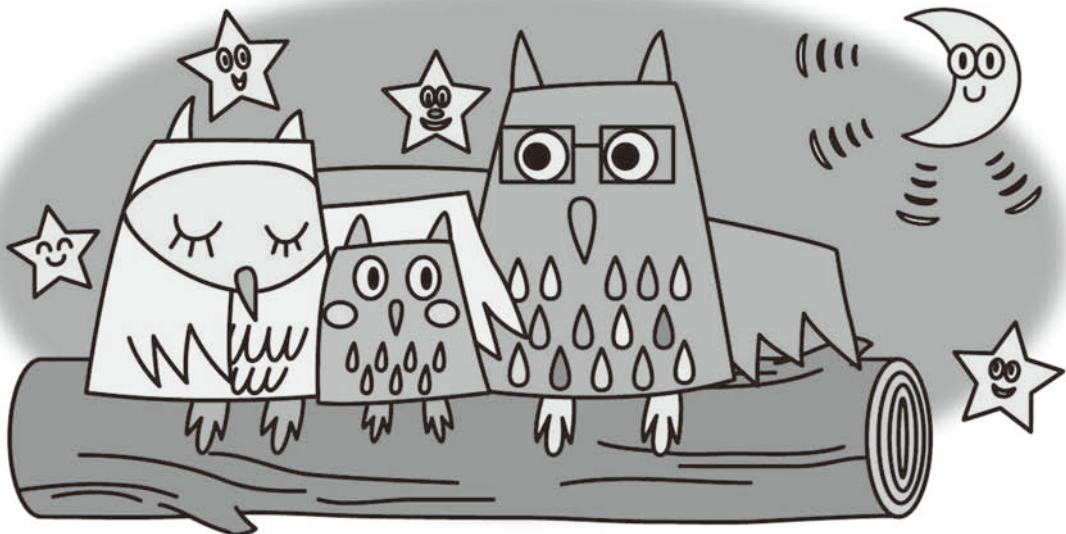
年度	最優秀賞(北海道知事賞)		全国大会	優秀賞(北海道教育委員会教育長賞、北海道PTA連合会会長賞、北海道青少年育成協会会長賞 H22~)			
	学校名	氏名		学校名	氏名	学校名	氏名
S54	利尻町立沓形中学校	池原 広文	出場 総務長官賞				
S55	根室市立光洋中学校	小林 優美	出場				
S56	様似町立様似中学校	川上美穂子					
S57	初山別村立豊岬中学校	高橋 未央	出場				
S58	鹿追町立鹿追中学校	最上佐緒里					
S59	厚沢部町立厚沢部中学校	後藤 晃					
S60	和寒町立和寒中学校	高岡 智扇		札幌市立手稲東中学校	庄田 香織	更別村立更別中央中学校	西川 朋憲
S61	小平町立達布中学校	紅屋 優		美瑛市立美瑛中学校	堀川 卓郎	稚内市立稚内南中学校	山崎 直美
S62	鶴川町立鶴川中学校	伊藤 奈美	出場	音更町立音更中学校	佐々木詩津子	和寒町立和寒中学校	岡本 百里
S63	砂川市立豊沼中学校	小林ますみ		増毛町立増毛第二中学校	上坂奈緒美	更別村立更別中央中学校	竹川 暢
H 1	江差町立江差中学校	中川 昌子		釧路市立鳥取西中学校	薄井 理砂	別海町立中西別中学校	臼井 貴之
H 2	鹿追町立瓜幕中学校	高橋恵美子		旭川市立広陵中学校	三浦 愛子	初山別村立有明中学校	新田千佳子
H 3	稚内市立稚内東中学校	森田 淳		中札内村立中札内中学校	中西 志香	美幌町立美幌中学校	飯島 紀子
H 4	弟子屈町立弟子屈中学校	横川 心	出場 文部大臣賞	白老町立虎杖中学校	中村有希子	江別市立江北中学校	藤城 正興
H 5	生田原町立生田原中学校	仁木利沙子		浦河町立浦河第一中学校	高田 牧生	別海町立中西別中学校	林 美穂
H 6	生田原町立生田原中学校	前島由衣	出場	旭川市立六合中学校	中村 沙織	余市町立西中学校	高山 仁美
H 7	幕別町立糠内中学校	中村 郁洋	出場	標茶町立磯分内中学校	岡崎奈未子	札幌市立新陵中学校	出林 裕佳
H 8	滝川市立明苑中学校	紺野友里子	出場	標茶町立磯分内中学校	藤本 智子	富良野市立山部中学校	寺井 正美
H 9	中標津町立広陵中学校	谷口 麻衣		七飯町立大中山中学校	竹安 玄太	苫前町立古丹別中学校	中嶋 卓広
H10	本別町立勇足中学校	岡本あすか		札幌市立北都中学校	野原 梓	天塩町立啓徳中学校	大岩 奈々恵
H11	根室市立柏陵中学校	分部 史織		江差町立江差中学校	柴田 優	中富良野町立中富良野中学校	杉原 咲
H12	稚内市立宗谷中学校	熊谷 慶子	出場	釧路市立北中学校	大井里紗	北広島市立西部中学校	畠山 直子
H13	新冠町立新冠中学校	中村みなみ		虻田町立虻田中学校	佐々木千恵	猿払村立拓心中学校	藤井 美咲
H14	共和町立共和中学校	本間 絵美		釧路市立武佐中学校	佐藤くる美	恵山町立東光中学校	佐藤 亜未
H15	釧路市立美原中学校	佐藤 妃奈		岩見沢市立上幌向中学校	森谷 紀治	歌登町立志美宇丹中学校	渡辺のぞみ
H16	熊石町立熊石第二中学校	山脇 恭子		上富良野町立東中中学校	熊谷 佳苗	鶴居村立鶴居中中学校	木村 友紀
H17	新十津川町立新十津川中学校	三吉 莉湖		歌登町立歌登中学校	金子 佳美	せたな町立大成中学校	正村 早紀
H18	北斗市立石別中学校	山田 亮一	出場	岩内町立岩内第一中学校	松山亜莉紗	枝幸町立志美宇丹中学校	渡辺ともみ
H19	枝幸町立志美宇丹中学校	渡辺ともみ		当別町立西当別中学校	萩原 有希	伊達市立長和中学校	本田 舞音
H20	岩内町立岩内第一中学校	熊野 遥華		幌延町立問寒別中学校	佐藤慎之介	池田町立池田中学校	新居 詩穂
H21	寿都町立寿都中学校	石王 凱騎		礼文町立香深中学校	中島佳奈子	千歳市立富丘中学校	中田 翔哉
H22	遠軽町立生田原中学校	阿部 愛		北海道教育大学付属釧路中学校	恒川 礼奈	増毛町立増毛中学校	加藤 修人
H23	別海町立中西別中学校	盛合 樹		帯広市立清川中学校	横山くるみ		
H24	猿払村立拓心中学校	熊谷 春奈		苫前町立古丹別中学校	永井 星奈	釧路市立幣舞中学校	田名部あゆみ
H25	帯広市立川西中学校	畠山 優輝		栗山町立栗山中学校	濱谷 珠美		
H26	稚内市立稚内南中学校	熊谷 七海		厚岸町立真龍中学校	山田 唯	札幌市立月寒中学校	安田 りな
H27	北海道教育大学附属札幌中学校	前田ほの香		遠別町立遠別中学校	丸山 美月		
H28	白糖町立庶路中学校	松橋 愛美		札幌市立平岡中央中学校	高野 大河	釧路市立鳥取西中学校	米内 貴志
H29	白糖町立白糖中学校	阿部はるか		江別市立江別第二中学校	最知なるみ		
H30	洞爺湖町立洞爺中学校	毛利 郁也		釧路町立富原中学校	山岸 永和	帯広市立帯広第五中学校	深町 陽奈
				鷹栖町立鷹栖中学校	高木 倅凪		
				千歳市立勇舞中学校	山田 萌未	帯広市立川西中学校	西野 侑未
				苫小牧市立緑陵中学校	吉岡 美月		
				豊富町立豊富中学校	伊藤 佑菜	標津町立標津中学校	上田 礼芽
				長沼町立長沼中学校	倉田 友美		
				芦別市立啓成中学校	渡部 胡桃	旭川市立神居東中学校	若林 千夏
				新ひだか町立静内第三中学校	坂本安侑子		
				厚岸町立真龍中学校	車塚花瑠香	岩見沢市立東光中学校	藤塚 麗瑠
				中標津町立広陵中学校	楓川 奈央	※美幌町立北中学校	田元 克

※H30=北海道150年記念 特別賞

毎月
第3
日曜日

ほーんわか、ほーっとする日。

道民家庭の日



「道民家庭の日」イメージキャラクター『ほーほーくん』

家族みんなでふれあい、 団らんする日です

家族そろって食事をしたり、
家族が団らんする機会を持つなど、
家族の絆を育みましょう

※ノーゲームデー（毎月第1・第3日曜日）も実施されています。

家族ふれあい協賛店・ 施設を利用しよう

毎月第3日曜日に子どもを連れた
家族が、料金の割引などのサービス
を受けることができます。

※優待券（コピー可能）の提出が必要です。
ホームページやフェイスブックから取得できます。

平成30年度「少年の主張」全道大会発表作品集

発行 公益財団法人北海道青少年育成協会

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番地23 第二道通ビル
TEL (011) 231-6451 FAX (011) 231-6457
URL <http://www.ikuseikyō.jp/> E-mail youth@ikuseikyō.jp



— 青少年の心を育てるキャンペーン —

「子どもは、社会を映す鏡」。

そんな考え方に立つてみると、私たち大人から、
先にしなければならないことがたくさんあります。

まず、大人自身が変わること。

そして、子どもたちを温かく見守り、支えあげること。

さあ、はじめましょう。

できることから、大人から